

(別添1)

【阪南市】

端末整備・更新計画

	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
① 児童生徒数	3,296	3,152	3,045	2,847	2,709
② 予備機を含む 整備上限台数	3,790	3,624	0	0	0
③ 整備台数 (予備機除く)	0	3,045	0	0	0
④ ③のうち 基金事業によるもの	0	3,045	0	0	0
⑤ 累積更新率	0%	96.6%	100%	100%	100%
⑥ 予備機整備台数	0	456	0	0	0
⑦ ⑥のうち 基金事業によるもの	0	456	0	0	0
⑧ 予備機整備率	0%	15%	0%	0%	0%

※①～⑧は未到来年度等にあつては推定値を記入する
(端末の整備・更新計画の考え方)

(更新対象端末のリユース、リサイクル、処分について)

○対象台数：3,983台

○処分方法

- ・使用済端末を公共施設や福祉施設など地域で再利用 : 0台
- ・小型家電リサイクル法の認定事業者にも再使用・再資源化を委託 : 0台
- ・資源有効利用促進法の製造事業者にも再使用・再資源化を委託 : 3,983台
- ・その他 () : 0台

○端末のデータの消去方法 ※いずれかに○を付ける。

- ・自治体の職員が行う
- ・処分事業者へ委託する

○スケジュール (予定)

令和7年5月 処分事業者 選定
令和8年3月 新規購入端末の納品
令和8年3月 使用済端末の事業者への引き渡し

○その他特記事項

(「⑤ 累積更新率」が令和10年度までに100%に達しない場合は、その理由)

(別添2)

【阪南市】
ネットワーク整備計画

1. 必要なネットワーク速度が確保できている学校数、総学校数に占める割合 (%)

阪南市立小中学校全12校の内、速度が確保できている学校数 0校 (0%)

※本市はセンター集約型でのネットワーク構成で現在運用を行っているため、全学校速度が確保出来ている若しくは全学校速度が確保出来ていないという結果となる。

2. 必要なネットワーク速度の確保に向けたスケジュール

(1) ネットワークアセスメントによる課題特定のスケジュール

令和6年11月 「阪南市立小中学校ネットワークアセスメント業務」の契約締結
令和7年 3月 上記契約に基づく成果品の納品（課題の特定）

(2) ネットワークアセスメントを踏まえた改善スケジュール

ネットワークアセスメントの結果を踏まえ、令和7年4月から順次改善策の検討を開始し、現在の契約が令和7年度に契約満了を迎えるため、学校行事等を踏まえて令和8年9月までに学校ネットワーク関係の更改を終了させ、ネットワーク環境改善を完了させる。

(別添3)

【阪南市】
校務DX計画

令和5年3月に『「GIGAスクール構想の下でのDXについて～教職員の働きやすさと教育活動の一層の高度化を目指して～」の周知について』の通知があり、日本型学校教育を支える基盤としての校務DX（次世代の校務DX）の在り方等について、現状と課題を整理した上で、関係省庁の施策や中央教育審査会における検討の方向性と整合する形で、具体的なビジョンと講じるべき施策をまとめたものが示された。

本市では、校務支援システムの導入や、教育情報ネットワーク環境において、児童生徒の個人情報等を取り扱う「校務系ネットワーク」と児童生徒が教育活動で利用する「学習系ネットワーク」と2つのネットワーク環境に分離し、セキュリティ対策を行っている。

また、教職員については、校務支援システムのグループウェアやシステム機能を活用することで、学校での伝達事項や教務、保健、学籍、成績管理等の情報をデジタル化し、教職員間で幅広く業務で利活用している。

今後、教育の情報化においては、教職員の異動する際の負担軽減やデータ標準化の観点からシステム共有化、GIGAスクール構想による1人1台端末の学習系ネットワークと児童生徒の個人情報等を取り扱う校務系ネットワークとのデータのやり取りの効率化に向けて、ネットワーク統合やアクセス制御による十分なセキュリティ対策を講じたゼロトラストに基づく環境の整備を、国や他の自治体の動向を捉えながら調査研究を進める。また、FAXでのやり取りや、押印の見直し、不合理な手入力作業についても、校務の効率化、ペーパーレス化を考慮し、改善策について、検討を行う。

【阪南市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

本市では、令和元年12月に国が打ち出したGIGAスクール構想を踏まえ、これまでの教育実践の蓄積と最先端のICTの活用のベストミックスを図ることにより、創造性を育む教育を持続的に実現し、教員及び児童生徒の力を最大限に引き出す本市のICT教育の未来像として、阪南GIGAスクールビジョンを定めている。

阪南GIGAスクールビジョンでは、授業改革、新しい学習活動、家庭学習の充実、教員の働き方改革の4つを目標の実現に向けたキーワードとして取組を進めている。

そのような中、学習支援アプリやデジタルドリル等を活用したり、調べ学習でインターネット上の資料を検索したりするなど、タブレット端末を活用した個別学習や共同学習を授業の中に組み込んだ授業実践を行うことで、授業改革や新しい学習活動に取り組んでいる。

学校におけるタブレット端末の活用については、児童生徒の意見をタブレット上で一斉に共有し、思考ツールを用いて考えを深めたり、グループでデータを共有したり、共同しながらプレゼンテーション資料を作成したりするなど、各校の授業実践における好事例を共有する中で、今後も授業や家庭学習におけるより効果的な活用について研究を進め、教育活動に活かしていきたい。

2. GIGA第1期の総括

本市は令和2年度に児童生徒と教員の1人1台端末及び通信ネットワークの整備を実施し、児童生徒が日常的に必要な「学びの道具」として各種デジタルツールを活用できる環境を構築した。

令和5年度からは、学習支援アプリを市内全小中学校で導入した。小学校低学年でも活用しやすいアプリを市内で統一して使用することで、好事例を共有する機会が増え、1人1台端末を授業などで使用する教員が増加した。

しかしながら、学校間、教員間で授業での活用や持ち帰り学習の頻度に差があり、よりよい活用方法をさらに深めていく必要がある。

3. 1人1台端末の利活用方策

本市はこれまでも、阪南市GIGAスクールビジョンのもと、児童生徒の1人1台端末の有効活用を推進するために、ICT支援員が各校・各教員・各授業を支援する体制を整えてきた。

昨年度から統一して導入しているアプリを中心に、各校の実践を担当者会にて市域で共有し、よりよい活用方法を研究することで、市内全教員のタブレット端末の活用頻度の向上を図っている。

今後もより良い活用方法について継続して共有するとともに、個別最適な学びや協働的な学びを促進し、児童生徒の学力向上や情報活用能力を向上させたい。